

木、空箱利用)ではお金の勘定、売買の態度も中々堂に入ったものだった。こうして盛り上ったごっこ遊びも互の行事に追われ、終り、二月末には全体が落ち着いた感。その落着の中に見られる情のこもった親しい表われには云い難い嬉しさが感じられる。

記録の整理

記録の整理も中々むつかしく、纏めるのに一苦労だったが兎に角此所へは、私達の夢中である、「みんな仲く。互に協力し合う点を反省しながら拾い上げる事にした。

○思いやりのある態度

○みんなと仲よく遊びを続ける

○自分で考え目的を持って行動する

○お友達と話し合い、協力して遊ぶ

この様な好ましい表われの方が実に多いので私達の努力も決して無駄でなかった様に思う。

記録を見つめて

○子供を愛し子供と共に過すこと

○その場その場に於て、個々に即した指導が大切

○園全体の子供に親しみと愛情を感じる様になった

○みんな可愛く見え、いじ悪の子がなくなった

○ともすれば落こぼれ勝な子供も、認められる場が支えられるのでみんな幸であった。

以上のべました様に私達が思いついて実行出来たのも園の環境が丁度それになっていた事で何と云っても幸せでありました。そして職員が一体となってこの仕事に当った事、年長児、年少児共実によく揃った無邪気な子供達であった事です。昭和三十一年度は、遊戯室、保育室の増設にもない環境もちがって来ると思いますが職員一同子供への努力を誓ってベンをおく。

(静岡精華幼稚園)

色とあそぶ(その2)

植田有子

「幼児と色彩生活」……これから成長する子供達の生活芸術化、豊かな将来への一助にもなりたいたい、此の大きな問題にとりくみ始めたのが、一昨年のこと！ まずその環境からと窓をセロファンでスタンドグラス風にしたり、砂をボスターカラーで着色したり、どんぐりを染めたり、あらゆる機会に色に親しむように努力してきました。そして得たことは、幼児に対する？の連続に他ならないのです。問題をもちかけて、何かデータをとったら、すぐ効果があらわれると思う私の一人よがりをつくづくと思いはされました。子供達はスタンドグラスでも作った時は、鋭敏に感応を示し、そ

の光影をうつす所のままごとをしたり、人形芝居をしたり、劇あそびをしたり、実に多角的に利用して、保育者の自己満足をいやが上にも昂揚してくれるのですが、絵画面にまでは、どうという効果はあらわれません。感激した割には、自分から動きだす

色彩面には、反応を示しません。幼児は、色彩に対しては、大人以上に鋭敏でありながらまだまだ能動的ではなさそうです。けれどいろいろの事をすることが出来ました。セロファンのスタンドグラスは、秋から冬へかけては、半年はまだその色彩は美しく、夏には、三月で、色あせて見られなくなりません。ここにも私の不満がありました。あれほど感激して、その光を利用した幼児達が、色あせても、平気なのです。誰も「先生、あのガラスの色、きたなくなつたね。」とも言ってくれません。徐々に、うすらいでゆくので、子供には、ピンとこないのか、常に効果をまちのぞんでいる愚かな保育者は、あきらめさせられるより仕方がありません。それでも、その雲をつかむような所に幼児保育の広さと醍醐味

が、あるのだと何かを求めて皆、張切つて此の活動を続けています。

セロファン糊つて、案外よく、ひつつくものですね、張って喜んだものの、今度、とるのに、大分手間がかかりました。ガラスに密着して、ナイフでないとおこせません、こんなに、大層だと、手まめに、張りかえられないので、ガラス絵にすることにしました。ガラスに、膠の下塗りをして、乾いた上に子供に絵をかかせます。膠をぬっておくと、色が、はじかないで、とても綺麗です。これだったら、取る時も柔なのでホツとしています。雑巾で拭けばいいのです。今、目の前で子供達は、一生懸命にガラス絵を楽しんでいます。「君の絵少し淋しいな」「同じ色ばっかりや、……それで淋しいのや」「こっちの方、えらい、あいてるやないか……。」と喧々囂々。思えば随分批判もするようになったし、色数も増えて来たものです。

でも、これは、年と共にクレパスなり、ポスターカラーなりに親しみを覚えて来た為でしょうか、幾分なりとも、私達の希望

した「色とあそぶ」の効果があったのでしようか……。今度、次のような票で、全園児の親んで来た色と、色数の経歴を三年分調べて見ました。昭和三十年末までの中間的なものですが、一組分(三十名)だけ報告して見ましょう。それも三年保育の子供あり、二年保育あり、その度々に、描いている子あり、殆んどかかない子ありで、な

幼児名()

月日	色別		備考
	しき	ろ	
	だいだい	い	けみうつぼあるくばち ほがぼつぼざくばち おめぼつぼざくばち
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	
	だいだい	い	

なかなか統計の対象になりそうにもありませんが、総体的な事は解ると思います。

これによると、幼児は男女共に圧倒的に赤を好むようです。色は大体クレパスの十六色を基準にとったのですが、ポスターカラーの場合、三年間、いつも同じ条件のもとに描画生活が行なわれたかということに對しては、必ずしも自信がありません。…が総計をあげてみると、

色	別	使用数
あ	か	941
み	ず	692
	き	620
だ	き	605
く	だ	582
み	ど	578
ち	み	495
き	ど	469
ぐ	よ	454
ん	み	398
は	じ	398
	け	377
	ち	306
	う	293
	け	224
	う	217
	け	159

こんなになりました。それぞれの園、またその年度によっても違うでしょうが、私の組では、なぜか肌色をあまり使っていません。この票で嬉しいと思っただけは、個人個人では、色の使い方に違いはあります。が、大体、それ程心配しなくても幼児達は比較的、いろいろの色に親しんでいてくれるという事です。中には、○君のよ

うに、年少児の時には、あらゆる色を羅列し、年中は大体こげ茶一本で通し、年長に又、いろいろの色をこなしているなど顕著な発達過程を示している子供等があり、とても示唆される事が多かったと思います。この票によると、子供によっては、全然とりついていない色もあつたり、個人指導には、比較的設計つのではないかと思えます。男女に於ても、その好みは幼児でも稍々ちがうようです。次にあげて見ると、

男 児		使用数
色	別	
あ	か	542
み	ず	432
	き	373
だ	き	351
く	だ	332
み	ど	331
ち	み	294
き	ど	273
ぐ	よ	269
ん	み	252
は	じ	239
	け	203
	ち	183
	う	135
	け	127
	う	73

女 児		使用数
色	別	
あ	か	399
み	ず	273
	き	269
だ	き	260
く	だ	247
み	ど	243
ち	み	209
き	ど	181
ぐ	よ	175
ん	み	
は	じ	
	け	
	ち	
	う	
	け	
	う	

このようになりました。肌色も女児では人数の割には使っているようです。実は、

この票は、保育者が、色彩生活を意図してから、どれ位、子供の使用する色数等が変ったか調べてみたのですが、年令的な変化のようで、たいした効果はみられなかったわけですが、クレパスを描く道具だとも知らなかった子供などの個人的な発達に於ては、割合面白い発達過程がみられました。この調査と同時に言葉とか、先入概念とかから受ける幼児の色彩活動をしたりといと思つて、「おぼけ」、「めがみ」、「ぼつぼつ」、「ざざざあ」、「くるくる」、「ぼ

おぼけ		使用数
色	別	
く	ろ	17
ぐ	じ	8
ん	ど	7
み	ど	5
き	ど	5
き	ど	5
あ	ち	5
ち	も	1
	み	1
	だ	1
	だ	1
	だ	1
	い	1
	い	1
	ど	1
	う	1
	は	1
	は	1
	お	1
	う	1

めがみ		使用数
色	別	
み	ず	13
も	も	13
	き	13
み	ど	13
き	ど	10
き	ち	8
ち	や	8
	か	8
	だ	5
	だ	5
	い	5
	ろ	5
	ち	4
	や	4

三歳児には「お母さん」でとり扱いました


夜に星を表現している→

○印は少しずつとり合せに入っている

ちばち、「びかびか」の言葉を与えて表現させてみました。この表題の与え方の難しさに、思わぬ壁にぶつかった思いをしましたが、それでも、これは面白い結果が得られました。

以上でわかることは、「色とあそぶ」という事は、全面的なゆきとどいた生活が考

(ほ う)



赤のぬりつぼし
がのびんと
くろが2名

その表現の主な形体と使用した色

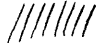
(ほっほっ)

4 4 3 3 2 2 1 1
ま たいたい
み たいたい
か たいたい
り たいたい
ろ たいたい
う たいたい
お たいたい

(くろくろ)


色は多り
は手から
にうで
みか
みか
みか
みか
みか

(ぶみぶみ)



ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ
ろろろ

(ほちほち)



火鉢を想像したのか
あ 29
く 13
ろ 3
ち 3
み 3
も 1

(びかびか)


かみなりの表現に
き 24
か 3
ち 2
み 2
み 2

慮されねばならぬことです。保育者の表現力が巧みであること、いつも朗らかであること、今更ながら、人間性の重要さをつくづくと感じました。例えば、「昨日雨がふりましたね」と話す時でも、「昨日は雨がぼつぼつと降っていましたね」……と、その話合だけでも子どもの表現は違ってくると思うのです。ほんとにこの一年間は、データと何かの方向を求めて、子供の「色とあそぶ」の生活をより豊かにしたいと努力して来ました。効果の出ない所に、よりつきとめたいという楽しみもあるものです。今後この活動を続けていきたくて、一同、頑張っているわけです、つたない中間報告のままに……。

(園)
(大阪学芸大学附属幼稚園)

子供に学ぶ

板東和子

およそ幼児の教育ぐらい難かしいものはない。

この度文部省より幼稚園教育要領が示されてお互いによろこばしいことであるがこれを手にして更に又幼稚園教育の難かしさを痛感するや切なるわけで、私共はこの難かしさを打開する為には先ず子供にさきかけて自らが幼稚園教師としての特質を悟り、望ましい経験や活動をよりよくしなれば子供に向って決してよき教育の施されよう筈はないと思うのである。

この意味に於て我が園の教職員と使丁十五名は一丸となって自己の経験領域を広める為にあれもこれも、あれもこれもと望ま